

事務事業名		農地法等に基づく許認可事務事業		<input type="checkbox"/> 実施計画登載事業		<input type="checkbox"/> 総合戦略登載事業				
政策体系	政策名	01 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間		予算科目				
	施策名	02 地域特性を生かした農林業の振興				会計	款	項	目	事業
	基本事業名	02 農業経営の安定支援				<input type="checkbox"/> 単年度のみ	01	06	01	01
根拠法令		農地法		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始 年度～)		事務事業区分				
所属	部課名	農業委員会事務局		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 【計画期間】		A 政策事業 B 施設整備				
	課長名	近江 学		年度～ 年度		C 施設管理 D 補助金等				
	係名	農地係	電話	27-3111	E 一般(A~D以外)					
	担当者	細谷 真実	内線	356	※全体計画欄の総投入量を記入					
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(※期間限定複数年度のみ)						
<p>農地法に基づく農地の権利移動の許可等の法定業務の遂行。</p> <p>主な事業内容</p> <p>①農地法、農業経営基盤法にかかる申請の受付・審査業務</p> <p>②総会業務(総会の招集、開催・議案の調整・申請地の現地調査資料の作成)</p> <p>③許可業務(総会で許可とされた議案を県の諮問を経た後、許可決定通知書を送付)</p> <p>総会前には、事務局・担当地区農業委員が事前に現地調査を行う。</p> <p>主な支出</p> <p>①農業委員の総会に係る費用弁償</p> <p>②県の諮問会議への出席旅費</p> <p>③総会会議録反訳料</p>				<p>総投入量(千円)</p> <p>事業費</p> <p>財源内訳</p> <p>国庫支出金</p> <p>都道府県支出金</p> <p>地方債</p> <p>その他</p> <p>一般財源</p> <p>事業費計(A)</p> <p>0</p> <p>人件費</p> <p>正規職員従事人数</p> <p>延べ業務時間</p> <p>人件費計(B)</p> <p>0</p> <p>トータルコスト(A)+(B)</p> <p>0</p>						

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		(5) 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
① 手段(主な活動)		名称	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		単位	
農地法等に係る許可申請の受付・審査(毎月)・許可・非農地判断業務		ア	申請受理件数
総会の開催(毎月)・または開催のための役員会		イ	総会等開催数
許可後の工事進捗状況調査を実施、報告書等を求めた。		ウ	非農地判断
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
前年度に加え、進捗状況調査を前倒しで行い、農地改良届の調査・指導を行う。		名称	
		単位	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		カ	申請農地面積
農地法等に係る許可申請対象農地		キ	荒廃農地
		ク	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
法律に則った権利の設定・移動がなされる。		名称	
		単位	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		サ	許可件数
農地の効率的な利用や経営の安定が図られ、農産物が安定して高く売れる。		シ	転用後の工事進捗状況報告件数
		ス	非農地通知数

(2) 総事業費・指標等の推移									
		年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(目標)	30年度(目標)	31年度(目標)	32年度(目標)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円						
		都道府県支出金	千円	619	676	700	700	700	700
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円						
	事業費計(A)		千円	619	676	700	700	700	700
	人件費	正規職員従事人数	人	4	4	4	4	4	4
		延べ業務時間	時間	2,900	2,500	2,300	2,300	2,300	2,300
		人件費計(B)	千円	11,600	10,000	9,200	9,200	9,200	9,200
		トータルコスト(A)+(B)		千円	12,219	10,676	9,900	9,900	9,900
⑤活動指標		ア	234	203	180	150	140	140	
		イ	13	13	14	13	13	14	
		ウ		551	200	100	70	70	
⑥対象指標		カ	332,883	197,481	140,000	120,000	100,000	100,000	
		キ		603,528	250,000	200,000	160,000	160,000	
		ク							
⑦成果指標		サ	234	203	180	150	140	140	
		シ	241	141	100	80	60	60	
		ス		551	200	80	60	60	

事務事業ID	0742	事務事業名	農地法等に基づく許認可事務事業
--------	------	-------	-----------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	昭和27年の農地法制定による。
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	平成19年度に農地法第4条及び第5条に係る事務等を、岩手県から大船渡市に権限委譲された。 平成21年度12月の農地改正に伴い、大船渡市では、平成22年度以降農地取得の面積要件を緩和し、50アールから10アールに引き下げた。 平成20年度から、転用件数は減少傾向にあったが、震災を機に平成24年度～26年度にかけ3～4倍に増加した。 平成25年4月から、転用許可申請の添付書類に残高証明書若しくは融資証明等経済状況を確認できるものが必須項目となった。(以前は省略) 平成26年より農地中間管理事業業務が追加され、平成27年9月には、農地法が改正され農地の利用促進が目的となった。
<ul style="list-style-type: none"> ・市議会議員から、「復興整備事業に係る土砂仮置場(一時転用)の申請を省略するなどの特例措置ができないか。」との一般質問があった。 ・許可申請者からは、「残高証明書は、通帳の写しで代行できないか。」との要望があった。 	

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 法に則った農地の権利の移動・設定を行うことにより、農地の適正な利用が図られる。このことにより、農業の振興という施策に結びつ
	② 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 農地は、食料生産資源のひとつであり、無秩序に権利の移動・設定(転用を含む)が行われると、食料の安定した生産に支障をきたすため、公的規制が必要である。
	③ 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 農地法の規定に則しており、類似した法律もないため、対象・意図は適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 震災後、提出の遅れている改良農地の工事進捗状況報告を年度初めに行い、確認することで、転用事業の変更や許可の取消し等の適正な指導ができる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 農地の権利の移動・設定(転用を含む)が無秩序に行われると、効率的な農地利用が困難になり、食料自給率が下がる。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 事業費は農業委員の総会出席のための費用弁償と岩手県の諮問会議への出席旅費、総会会議録反訳委託料、であり最小限の支出である。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど) 8年ぶりに非農地判断を2月に551筆行ったことで確認のための現況調査等の時間外が多かった。、毎年行うことや、年1回ではなく、3回に分ける等工夫をすることで削減できる。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 岩手県から大船渡市に権限委譲されている事務であり、受益者負担を設定することができない。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果																				
1 現状維持 2 改革改善(縮小・統合含む) → 3 終了・廃止・休止	左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	向上	●			維持			×	低下		×	×
	コスト																				
	削減	維持	増加																		
向上	●																				
維持			×																		
低下		×	×																		
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																					
<ul style="list-style-type: none"> ・震災以降増大した農地改良届、一時転用等の進捗確認を集中的に行う。 ・28年度8年ぶりに行った非農地判断を、毎年行うことで、また、定期的に分けて行うことで、人件費の削減が可能となり、迅速に、適正な土地利用を行う指導ができる。 																					

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
1 現状維持 2 改革改善(縮小・統合含む) 3 終了・廃止・休止	農地法等に則り書面の提出等については、申請者等に指導の徹底を図るとともに、必要に応じて集中的に調査を行う。併せて、適正な農地管理が図られるよう、非農地判断を定期的を実施するなど、現状の把握に努める。